

大悲山峰定寺の駐車場に車を停めて出発。寺谷川沿いの林道を歩く。暫くは南向きなので朝日があたらず寒い。三本杉分岐あたりから、日差しが部分的に差し込んで明るくなる。寺谷川を大きく南に廻り込み暫く歩くと、ナメラ谷との分岐に出る。

この出合に、峰床山西尾根の支尾根が張り出しているの、これに取り付くのだが両サイドが急斜面である。両サイドを確かめて結局ナメラ谷右岸にある獣道から取り付く。標高差 200m近い急坂が続く。斜面の途中にはイワウチワの群生地がある。標高 630mの尾根に乗り一息つく。平坦な痩せ尾根にはシャクナゲの木が多い。複雑にコースを選びながら進むと再び急斜面になるが、標高差 60mほどで尾根に乗り、方向が北向きになる。

標高 800m辺りに突然杉の巨木が現れてびっくりする。しかし、それが始まりだった。次々と連続して現れる巨木を廻り、右に行ったり左に行ったりと忙しい尾根歩きとなる。ある場所では落雷で焼け焦げた立木が 2 つに割れ、燃え落ちた幹から放射状に落ち葉を燃やしながらか数メートルに広がった火災が、巨木に燃え移り途中まで燃え登ったが、降りしきる雨に消されて類焼には至らなかった様子である。自然界の猛威を目の当たりにして恐怖心に囚われた。その現場に居合わせたとすれば、足の遅い人間には、逃げ場は無かつただろうと考えたからだ。

大杉の森を越えてもしばらくは穏やかな尾根が続く。標高 880m辺りで林道に出るが、尾根に出るためには急斜面を登る必要があったが、10 数メートルも登ると穏やかな尾根に乗る事が出来た。電波塔があり自然林の美しい森を抜けると前方に峰床山の山頂が見えてくる。

峰床山山頂は展望が開けており、快適である。雪を被った白山や鈴鹿山系、愛宕山、ポンポン山、丹波山地の青々と、たたなずく山々の広がりが見える。二人きりで眺めるには贅沢な展望である。

ランチ後は俵坂を越えて、久しぶりに峰定寺に下る。美しい自然林を越えると杉などの植林地のツズラ折れ道が待っている。暗いナメラ谷を経て、寺谷川左岸奥にある、3本杉まで足を伸ばす。巨木の森を見た後だったが、真っ直ぐに伸びあがる杉の巨木は見応えがあり、神々しい。

★メンバー 西川・三鍋 ★コース 峰定寺駐車場 8:32～寺谷出合 9:00～大杉の森

10:00～850m 尾根 10:52～電波塔 11:20～峰床山 1:24 発 55～俵坂峠 12:26 発 28～三本
杉分岐 13:21～三本杉 13:33 発 41～分岐 13:52～峰定寺 14:05